

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創設 117 年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6 年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）を育成することをミッションとし、未来に向けた挑戦を始める。

＜中高一貫校としてめざす学校像＞

「南河内の誇りを胸に抱き、世界とつながり、活躍できる人材」の育成校をめざす。

＜中高一貫教育を通して育みたい力＞

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 各教科・科目において、中高一貫して学習指導要領の目標を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 45分×7限授業（35単位時間（45分授業））により、確かな学力の育成に取り組む。

イ 「アクティブ・ラーニング研究チーム」を核として、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善に全教員で組織的に取り組む。

ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。

エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度を平成29年度は70%をめざし、その後も70%以上を維持する。

## 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを開発し、地域をフィールドとして課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。

イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。

※（生徒向け）学校教育自己診断における「見える化システム」の利用率100%をめざす。

## 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア ＜中高一貫教育を通して育みたい力＞の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度90%をめざし、その後も90%以上を維持する。

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（台湾、オーストラリア、ドイツ、タイ等）の充実

イ ・海外での交流校の発掘

・台湾の姉妹校との交流の継続

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で国際交流満足度 90%をめざし、その後も 90%以上を維持する。

## 4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校開校に向け再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページに一新するとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度90%をめざし、その後は90%以上を維持する。

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティスクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進

イ 安全・安心な学校づくり

ウ 地域貢献を推進

※（生徒向け・保護者向け）学校教育自己診断における学校満足度 90%をめざし、その後も 90%以上を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<b>I 生徒保護者</b> 1. 学校満足度 ＊生徒・保護者ともに満足は高い。 ＜主な結果＞ （生徒からの回答） 「富田林中学校に入学してよかった」・・・・・・・・・・90% （保護者からの回答） 「富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」・・・・・・・・・・90% 2. 学力の育成 ＊教員の授業内容や ICT を活用するなどの工夫については、概ね良好な回答	<b>第1回（平成 29 年 5 月 18 日）</b> ○H29 年度学校経営計画について ・学校経営計画に挙げられている「グローバルな活動」が、すべて「国内から海外へ出ていく」活動になっているのではないだろうか。2020 年東京五輪等、「海外から国内へ迎える」という視点も考えてはどうか。 ・中高一貫校は、受験一辺倒の教育になり、テクニック等の小手先だけの学習になりがち。より本質的な指導を求める。進学することが最終目的とならないように願う。 ・「論理的課題解決能力」について、「解決」とは何をもって「解決」とするのか。課題を論理的に整理し、互いに落とし所を探るのか、相手を論理的に圧倒するの

## 府立富田林中学校

であった。宿題の量が多いことについて、生徒は負担を感じている。学力向上に向けて必要な宿題の量と生徒の学習状況のバランスを調整していく。

\*保護者は学力の育成に対する取組みに概ねご満足している。

すべての生徒にとって「学力が身に付く授業」を実現するために、今後も校内全体で授業改善に取り組む。

<主な結果>

(生徒からの回答)

「わかりやすく興味が持てる授業が多い」・・・86%

「内容を深く考えさせる授業が多い」・・・81%

「教員のICT機器の使用は、内容を理解する上で効果的である」・・・95%

「課題や宿題の量は適切である」・・・38%

(保護者からの回答)

「学校の学習活動への取組に満足している」・・・90%

## 3. 学校生活

\*生徒の生活状況や悩みを把握するとともに、生徒理解に努めた上で指導方法の工夫する必要がある。生徒に信頼され生徒が相談しやすい学校づくりをめざす。

<主な結果>

(生徒からの回答)

「学校の生活についての指導は適切で納得できる」・・・78%

「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」・・・80%

「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」・・・62%

## 4. 特色ある取組、豊かな感性

\*国際交流、海外研修などの本校独自の取組及び学校行事に関して生徒・保護者両者の満足度は非常に高い。総合的な学習の時間などの探究活動については、さらに指導内容及び指導方法の研究に努める

<主な結果>

(生徒からの回答)

「学校は国際交流やイングリッシュキャンプ、海外研修等を通して、グローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている」・・・96%

「総合的な学習の時間などの探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力などが身についた」・・・80%

「学校行事に参加するのは楽しい」・・・87%

(保護者からの回答)

「学校は国際交流を積極的に行っている」・・・97%

「学校の学校行事への取組に満足している」・・・89%

## 5. 保護者連携

\*学校からの情報発信については概ね良好な結果となった。生徒を通じた情報共有がより可能となるよう保護者と連携していく。

<主な結果>

(生徒からの回答)

「学校はホームページ・ブログなどで情報をよく流している」・・・88.9%

「学校からの連絡を保護者に伝えている」・・・82.9%

(保護者からの回答)

「学校はホームページ・ブログなどで情報をよく流している」・・・92.0%

「学校からの連絡は子どもを通じて把握している」・・・66.4%

## II 教員

## 1 教育活動

\*ICT機器の活用については教員の指導力向上につながり、生徒・保護者から非常に高い満足度を得る要因となっている。授業方法等を検討する機会については1学年しかない初年度については、教科担任が1名である教科がほとんどであることとも要因としてあるが、今後の工夫改善が必要である。

<主な結果>

(教員からの回答)

「『主体的・対話的で深い学び』を意識して授業をしている」・・・80%

「ICT機器を使った授業を行ったことがある」・・・90%

「教員の間で、授業方法等を検討する機会が多い」・・・70%

## 2 学校経営

※校長の指導力をさらに発揮する。

「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」・・・100.0%

「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」・・・80.0%

かによっては、めざすもの、教えるべきものが変わってくる。教員間でより詳細に意思疎通を図るべきである。

- ・部活動について、中学生と高校生という能力差のある生徒同士でスポーツを行う際の事故等トラブルへの対処を綿密に準備すべき。慎重に取り扱う必要あり。
- ・学校経営計画に部活動についての記載が少ない。課外の活動にも力を入れるべきではないか。
- ・コミュニティ・スクールの取組みは全国的に取組みが進んでおり、魅力的である。学校経営計画に、「生徒・保護者・地域のニーズ」とあるが、この「ニーズ」という言葉を「進学実績」などの狭義に捉えず、より広い視点でとらえる努力が必要。また、「課題をもった子どもへのフォロー」という意識も必要。

## 第2回(平成29年8月18日)

○平成30年度学校運営協議会の取組みについて(コミュニティ・スクール化に向けての意見)

- ・NPO法人「地域学校協働本部」(仮称)を、同窓会を中心に結成してはどうかと考えている。「学校運営協議会」と連携して、事業をコーディネートすればいいのではと思う。
- ・中学、高校の協議会をそれぞれ開催するイメージだが教育方針は同じであるため共通する協議内容については合同開催でよいのではないかと。
- ・コミュニティ・スクールと生徒との位置づけはどうか。地域だけでなく、生徒の要望を入れて三者間の関係で進めていくのはどうか。
- ・社会に近い高校生を動かしながら学校全体を見ていくシステムがよい。
- ・大人が提供するものと生徒のニーズがずれている場合がありがち。生徒を巻き込んでいくのは重要。生徒会の生徒などだけではなく、生徒全体が認知する必要がある。できるだけ多くの生徒の声を拾って望むものを提供していく形にしてほしい。
- ・生徒がコミュニティ・スクールについてよく知っていることによって学校の活動がうまく回っている現状もある。最初のうちは大人ができることを示すことも重要だが、のちには生徒から提案が出るのではないかと。生徒・地域が変わってきたら柔軟に対応・修正すればよい。
- ・他者理解をふまえた解決力や共感性など学力以外の部分を育てることが重要では。富中未来塾などを起点とするのもよいのではないかと。
- ・生徒の意見を聞きとりやすい場や機会を設けなければならない。話を聞いたうえで、どのような方向に目標を設けるのがよいのか考えるべき。主役である生徒のことを把握することが優先である。
- ・今すでに学校で取り組んでいることをより充実させていく、その中で高校生の意見を聞いて、学校運営協議会で10年先の子ども像を共有するのが第一歩になるのではないかと。
- ・協議会が密室にならないよう、教員も何人か交代で会議に出るなどして、教員全体への門を開くことが重要である。
- ・コミュニティ・スクールをどのようにするかを考えるテーマコミュニティでよいのではないかと。

## 第3回(平成30年2月13日開催)

○学校自己診断結果および学校評価について

- ・教員や親とのコミュニケーションが少ないという結果が出ている。家庭での学校の話をする機会が少ないのでは。メール連絡は便利だが、これに依存するのも不安。生徒自身が学校の話をお話にする流れをつくる必要がある。
  - ・診断結果では、生徒の宿題の負担が大きいという結果も出ている。
  - ・学力については申し分なく取り組んでいるようだが、体作りやスポーツについてはどうか。診断結果にはそういった側面には触れられていない。
  - ・アンケート結果からは、効果の出ている面、課題のある面がハッキリと分かれた。スタッフの人数、学年数などからまだまだ発展途上。明確な見通しを持って今後も進めていきたい。
  - ・「先生は困っていることがあったら真剣に対応してくれる」についてはアンケートの取り方についての改善が必要。否定的回答の2割について「なぜそう思わないか」をもっと詳しく分析できるよう改善すればいい。また、生徒自身の課題解決力に頼りすぎると、大人によるアフターフォローも出遅れる恐れがある。
  - ・学校評価について、数値として結果を出すのは明快で分かりやすい。一方で、それぞれの評価項目、数値の詳細(なぜそのような評価なのか)まで分析できるよう、より具体的で詳細なアンケートとして、質を高めていくことが必要。
- 校則について
- ・学校の考え方を、保護者にしっかりと発信していくのが重要であり、引き続き取り組んでほしい。

## 府立富田林中学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 各教科において中高一貫して学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む</p> <p>ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ アクティブ・ラーニング研究チーム」を核として、アクティブ・ラーニングの視点による授業改善に全教員で組織的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力を推進する。</p> <p>エ 家庭学習ノートの一層の活用を図るなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p>	<p>ア・45分×7限授業(中学校では週35単位時間)により、学校生活をデザインする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝始業前に10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。</li> </ul> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブ・ラーニングの取組みを検討し、各教員がアクティブ・ラーニングの授業デザインをもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回の研究授業を実施するとともに、教科別に1週間の公開授業週間を設定し、他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究をおこなう。</li> <li>・生徒による「授業アンケート」を5月、11月に実施し、全教科による授業改善シートを作成する。</li> <li>・全教科でICT機器を活用した研究授業を実施し推進し、成果検証を行う。</li> </ul> <p>ウ オールイングリッシュで2日間を過ごす「イングリッシュキャンプを実施。</p> <p>エ 家庭学習記録ノートを作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p>	<p>ア・(生徒向け)学校教育自己診断における授業満足度を平成29年度は80%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「モーニング・イングリッシュタイム」の成果を分析したか。</li> </ul> <p>イ・(教員向け)学校教育自己診断「アクティブ・ラーニングを意識して授業をしている。」85%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科別に1週間の公開授業週間を設定できたか。また、年に2回の研究授業を実施するなど校内全体で授業研究を実践できたか。</li> <li>・2回の「授業アンケート」を実施し、全教科による授業改善シートが作成され改善がすすんだか。</li> <li>・ICT機器を活用した授業ができたか。(教員向け)学校教育自己診断「ICT活用授業を行ったことがあるか」85%以上をめざす。</li> </ul> <p>ウ イングリッシュキャンプを実施し、成果をあげることができたか。</p> <p>エ (生徒向け)学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」80%をめざす。</p>	<p>ア・(生徒向け)86%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力推移調査(全国の中高一貫高校576校が参加)においてリスニング分野について全国平均を6.7ポイント上回った。(○)</li> </ul> <p>イ・アクティブ・ラーニング(教員向け)80%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間(11月)を設定「道徳授業づくり研修(中高合同)」を地域に授業を公開し、研究討議会を開催(2月)。(○)</li> <li>・授業改善がすすんだ。(○)</li> <li>・ICT機器活用(教員向け)90.0%(◎)</li> </ul> <p>ウ 実施し、生徒と教員に5段階での自己評価を求め下記のとおり概ね成果を上げた。(○)</p> <p>(生徒向け)</p> <p>「イングリッシュキャンプは楽しかった」平均4.4</p> <p>「英語力は向上した」平均3.9</p> <p>(教員向け)</p> <p>「生徒はイングリッシュキャンプを楽しんでいた。」平均4.6</p> <p>「グローバルな視野を育てるのに役立った」平均3.8</p> <p>エ 家庭学習(生徒向け)74.4%</p> <p>目標の80%には達しなかった。(△)</p>
2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進するとともに、高校では6年一貫教育の結果としての進学実績の向上を図る。</p> <p>ア 「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを開発し、地域をフィールドとして課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成する。</p> <p>イ 中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。</p>	<p>ア・地域で身近な課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を地域フォーラム等で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を開設することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。</li> <li>・先進的な中高一貫校を視察することにより、実践事例を学び、指導方法の改善を図る。</li> </ul> <p>イ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を作成し、中学校1年次より活用し、将来の目標を早期に発見させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習室(同窓会館、会議室、図書館等)の利用を促進する。</li> <li>・毎週火曜日の学習優先日に補・講習を実施する。</li> </ul>	<p>ア・設定した目標に従い、探究型の課題研究ができ、また個人やグループのプレゼンテーションの質が高まっているか検証できたか。(ルーブリックの活用)</p> <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習室利用率の向上(生徒向け)学校教育自己診断自習室利用率40%をめざす。</li> <li>・学習優先日(毎週火曜日)に補・講習を実施できたか。</li> </ul>	<p>ア・「南河内探究」を実施し、生徒が設定した目標に対し協働的に取り組み、成果については、分野別発表会と学年発表会(2月)で検証(ルーブリックの活用)した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、地域フォーラム(3月)で地域に公開発表。(○)</li> <li>・総合的な学習の時間に「富中サイエンス」を実施し、大学や高校教員、専門家による自然科学に関する専門的な講座を開設。(○)</li> <li>・先進的な中高一貫校を3回(6月、12月、2月)視察。(◎)</li> </ul> <p>イ・生徒と保護者に「中高一貫学力推移調査」についての効果的な活用について説明会を開催(6月)し、さらに「中高一貫学力推移調査(2回実施)」及び「総合学力調査(1回実施)」の分析結果について説明会を開催(2月)。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自習室利用率の向上(生徒向け)16.2%(△)</li> <li>※学校の近くに年度途中に完成した富田林市の「きらめき創造館」で自習している生徒が多い。</li> <li>・学習優先日(毎週火曜日)に中学・高校教員、大学生、高校生が中学生の学習を支援する「富中未来塾(補・講習)を実施。(◎)</li> <li>※大阪府教育コミュニティづくり推進事業を活用</li> </ul>

## 府立富田林中学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア 学校教育目標で設定した〈育みたい力〉の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア・国際交流（台湾、オーストラリア、ドイツ、タイ）の推進を図る。</p> <p>イ・海外での交流校の発掘 ・台湾やオーストラリアの姉妹校との交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <p>① 文化祭・体育祭における準備委員会を高校生と協働で活性化させる。</p> <p>② 修学旅行や校外学習等を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。</p> <p>③ 部活動への参加を奨励する。</p> <p>イ・中学校段階に相応しい人権及び生徒指導研修を計画・実施する。</p> <p>・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に着けさせる。</p> <p>・制服を着用させる。</p> <p>ウ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p> <p>・総合的な学習の時間の取組みの中で、演劇的手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・台湾及びオーストラリア姉妹校との交流を充実させる。</p> <p>・ドイツ（ザールラント）との交流を充実させる。</p> <p>イ・中高一貫校での修学旅行（中学校・高校）を検討する。</p> <p>・海外交流校の情報を収集し発掘する。</p> <p>・海外研修旅行を実施し、世界的な視野を広めるとともに、異文化を理解しようとする態度を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における行事満足度90%をめざす。</p> <p>・部活動加入率80%をめざす。</p> <p>イ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度90%をめざす。</p> <p>・(生徒向け) 学校教育自己診断結果における校則遵守率90%をめざす。</p> <p>ウ・(生徒向け) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度率90%をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア 多くの生徒が海外の高校生と交流できたか。</p> <p>イ・海外交流校についての情報を発掘できたか。 (生徒向け) 学校教育自己診断結果で国際交流満足90%をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒向け) 87% (△)</p> <p>・部活動加入率93% (◎)</p> <p>イ・(生徒向け) 92% (○)</p> <p>また、PTA及び教職員対象にアンガーマネジメント研修を実施した。</p> <p>・(生徒向け) 92.3% (○)</p> <p>ウ・(生徒向け) 80%</p> <p>生徒の生活状況や悩みを把握するとともに、生徒理解に努めた上で指導方法の工夫する必要がある。(△)</p> <p>・いじめ対策委員会(定例会4回)を計画的に開催し、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施。(○)</p> <p>・総合的な学習の時間の取組みの中で、演劇的手法を用いてコミュニケーション力を育成。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 国際交流会を5回実施。(台湾2回、中国1回、タイ1回、マレーシア1回、フランス1回)。(◎)</p> <p>イ・中国より教員団視察を2回受け入れ。 その他については、説明会等を視察し情報収集。(◎)</p> <p>・グローバルリーダー育成海外研修(マレーシアクアラルンプール12月)を実施。多様性についての理解しようとする態度を育成。 成果については学年集会(1月)で発表。地域フォーラム(3月)で発表。 (生徒向け) 95.7% (◎)</p>
--	---	---	--	--

## 府立富田林中学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校開校に向け再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。</p> <p>ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。</p> <p>イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として相応しい学校Webページに一新するとともに、校長ブログ等による情報の発信を強化する。</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。</p> <p>ア コミュニティスクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>イ 安全・安心な学校づくりに努める。</p> <p>ウ 地域貢献を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中学、高校それぞれの対応する分掌が協働できる会議システムを構築する。</p> <p>・中高一貫教育の観点で新しく再編した分掌(中高一貫創生部)を機能させる中で、人材育成を図る。</p> <p>イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。</p> <p>ウ 中高一貫校として相応しい Web ページにリニューアルし、効果的な情報発信をする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会の設置(平成30年度)に向けて推進委員会を設置し、組織体制及び取り組み内容等について検討を行う。</p> <p>・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。(準備委員会、教職員)</p> <p>イ・中学校発達段階における教育課題解決のための専門化人材(S C、S S W等)を効果的に活用する。</p> <p>・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</p> <p>ウ・南河内探究フィールドワークを実施し、地域を知るとともに地域の課題を発見させる。</p> <p>・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</p> <p>・地域住民を巻き込んだ総合学習の成果発表会である地域フォーラムを開催する。</p> <p>・地域貢献活動を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能することができたか。</p> <p>・継続的な人材育成が「創生部」の取組みとしてできたか。</p> <p>イ 中高一貫校の先進校情報を収集し、学校づくりに活かされたか。</p> <p>ウ 学校 web ページを中高一貫校としてふさわしいものに一新し、効果的な情報発信ができたか。</p> <p>(保護者向け) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会に向けて推進委員会を設置し、取り組み内容について検討を行ったか。</p> <p>・(生徒向け) 学校教育自己診断における学校満足度 90%をめざす。</p> <p>(保護者向け) 学校教育自己診断における学校満足度 90%をめざす。</p> <p>イ (生徒向け) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度 60%をめざす。</p> <p>ウ・総合学習で地域をフィールドにした活動ができたか。</p> <p>・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができたか。</p> <p>・総合学習の成果発表会である地域フォーラムを開催できたか。</p> <p>・河川清掃などの地域でのボランティア活動を継続できたか。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中高一貫教育推進委員会を週1回定期的に開催。(○)</p> <p>・中高それぞれの対応する分掌が協働的に機能するためには計画に基づく定期的な開催が必要。(△)</p> <p>・「授業改革推進チーム」がイニシアティブをとり教科横断で授業改革を推進。継続的な人材育成。(○)</p> <p>イ・先進的な中高一貫校を3回(6月、12月、2月)視察。実践事例を学び、カリキュラムや組織体制の改善に役立てた。(◎)</p> <p>ウ 学校 web ページを中高一貫校としてふさわしいものに一新。(◎)</p> <p>(保護者向け) 92.0% (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校協議会の協議題に学校運営協議会の取り組み内容を掲げ検討。(○)</p> <p>・「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて下記のとおり先進事例の情報収集及び研修を開催。(協議会委員、教職員)</p> <p>「地域とともにある学校づくり推進フォーラム(文部科学省主催)」に2回参加</p> <p>「未来に挑戦するコミュニティ・スクールの実現に向けて」を1回開催(8月)</p> <p>・(生徒向け) 89.7% (○)</p> <p>(保護者向け) 94.7% (◎)。</p> <p>イ・S Cによるカウンセリングを週1回定期的に実施。(○)</p> <p>・教員によるカウンセリング週間を設定し3回実施。(生徒向け) 61.5%。(○)</p> <p>・S S Wを活用し、生徒指導体制の構築や生徒のスクーリングを実施。(月1回)</p> <p>また、福祉機関等の関係諸機関連携に係るノウハウや生徒支援に係るアセスメントを参考に生徒指導。(◎)</p> <p>・防災アドバイザーを活用し、防災教育推進委員会を開催(年5回)し、中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、避難所開催研修(11月)を実施し安全安心のための学校環境を整備。(◎)</p> <p>ウ・総合学習で「南河内探究」を実施。(○)</p> <p>・代議員会(中学生)・生徒会(高校生)が中心となり小学校と連携したあいさつ運動を毎日実施。(◎)</p> <p>街頭で地域の見守り隊と協働で、教職員があいさつ運動を実施。(○)</p> <p>※大阪府教育コミュニティづくり推進事業を活用。</p> <p>・代議員会が大阪府中学校生徒会サミットに参加し府内市町村立中学校及び市立中学校の事例を研修。(○)</p> <p>・幼稚園を文化祭(6月)に招聘し交流。(○)</p> <p>・総合学習の成果発表会である地域フォーラムを開催(3月)。(○)</p> <p>・河川清掃などの地域でのボランティア活動を開催(3月)。</p>
-------------------------------------	---	---	--	---